

第52回日本毒性学会学術年会

ランチセミナー
のご案内2025年 **7/3** 木 [12:45~13:45] L2-4沖縄コンベンションセンター 第4会場【会議棟B】B1
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4丁目3-1定員:200名(先着順) セミナー当日に整理券を配布予定です
受付時に名刺を頂戴いたします【演題1】 PXB-mouseとPXB-cellsを用いた*in vivo/in vitro* 毒性評価

【演者1】 石田 雄二

株式会社フェニックスバイオ 研究開発部

cDNA-uPA/SCIDマウスを宿主としたヒト肝細胞キメラマウス (PXBマウス) 及び、キメラマウス由来の新鮮ヒト肝細胞(PXB-cells)は、ヒトへの外挿性の高いモデルとして薬物動態や薬効評価等の様々な分野で既に幅広く利用されているが、肝毒性の予測・評価や毒性メカニズム研究においても有用であると期待されている。本セミナーでは、これまでに我々のグループで実施してきた、*in vivo*並びに*in vitro*での肝毒性に関わる研究成果について紹介する。

【演題2】 PXBマウスを用いた肝毒性研究の課題と展望

【演者2】 井澤 武史 先生

大阪公立大学大学院獣医学研究科 獣医病理学

ヒトと動物では解毒代謝能の種差が大きく、げっ歯類を用いた非臨床試験のみでヒトの毒性を完全に予測することは難しい。特に、代謝物が毒性発現に寄与する肝毒性については、毒性反応の種差が問題となる。PXBマウスなどのヒト肝細胞キメラマウスは、肝臓でヒト由来の解毒代謝酵素群を発現し、ヒトに近い薬物動態を示すことから、毒性の種差を克服する有用なツールとして期待される。一方で、PXBマウスでは肝毒性の反応が弱いという課題も残されている。本セミナーでは、発表者のこれまでのPXBマウスを用いた肝毒性研究の概要と、細胞接着に着目した肝毒性メカニズムに関する新たな研究展開を紹介する。

《お問い合わせ》

株式会社フェニックスバイオ
ビジネスディベロップメント部

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3丁目4番1号

Tel : 082-431-0016 Email : sales@phoenixbio.co.jp

共催:第52回日本毒性学会学術年会 株式会社フェニックスバイオ